

第1回 日本風景街道 未来ビジョン共創会議 議事録

令和8年5月25日

【道路環境調整官】 只今から、第1回日本風景街道未来ビジョン共創会議を開催いたします。本日の会議は、一部の委員におかれましては、web でのご参加となっております。大変お忙しいところ、お時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の会議につきましては、各地方整備局、各ルートの方々も web で傍聴していることをご報告いたします。

私は、事務局を担当する道路局環境安全・防災課 留守です。よろしく願いいたします。

早速、開会にあたりまして、道路局環境安全・防災課長の水野からご挨拶を申し上げます。

【環境安全・防災課長】 国土交通省道路局環境安全・防災課長の水野でございます。本日はお忙しい中、この未来ビジョン共創会議の第1回目にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

そして、web でご参加いただいている全国の日本風景街道の活動をしていらっしゃる方々、本当に日頃の活動に感謝申し上げるところでございます。

さて、この日本風景街道については、来年で20周年を迎えるところでございます。20年続けてきた中で、やはり世代交代という課題もありますし、よくお話を伺うと、もう少し行政からの支援を強化してほしいという声もあるということで、20年の間で様々な課題が浮き上がってきたように思います。

それに加えて、20年も経ちますと社会経済と時代の背景が変わってきて、変わらないものもございますけれども、求められるもの、皆さんに取り組んでいただきたいと思うことも多々増えてきたところでございます。

特に最近、災害が多いということで、一昨年1月の能登半島地震では、発災後に豪雨災害も続きました。一方、風景街道の取組として「能登半島絶景海道」ということで、能登半島の地震からの復興として地元で盛んに積極的に取り組んでいただき、その活動に対して国土交通省、県、自治体、コミュニティの皆さんも含めて支援を差し上げております。

今後、防災も考えながら、しっかりと風景街道を発展させていただければならないと考えております。特に、平常時も災害時も同様なのですが、地域の絆も大事にしながら、風景街道を発展させていただきたいと思っております。

本会議の概ねの目標としては、年内に一定の目標と方針を立てていきたいと思っております。

本日お集まりの有識者の皆様方、そして今後学生の方々からもご意見を聞いていきたいと思っておりますし、是非、本日聞いていただいている風景街道、実際現地で活動している皆様方からもご意見をいただいて、良い取りまとめにしていきたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

以上で私の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

【道路環境調整官】 それではカメラ撮りにつきましては、ここまでとなります。

本日の資料を確認します。web参加の方には一式PDFで送らせていただきます。資料は、議事次第、資料1、資料2、資料3、資料4、参考資料をご用意しております。不備などがございましたら、ご連絡ください。

続きまして、本日ご出席の委員をご紹介します。今回、第1回でございますので、お名前を挙げさせていただきました際に、一言ご挨拶を頂戴できればというふうに思います。まず、お1人目でございます。筑波大学名誉教授の石田東生委員でございます。

【石田委員】 よろしく願いいたします。

一言、自己紹介ということですが、最初に言うべきことは結構歳をとっております。もう間もなく、後期高齢者になってしまいます。

風景街道との関わりで申し上げますと、最初に北海道でシーニックバイウェイというのが立ち上がりました。そのときに制度検討委員会の座長を務めさせていただいて、北海道のシーニックバイウェイでの根本的なラインを決めさせていただいたところでございます。それからしばらく経って、北海道で結構いいことをやっているということで、本省の道路局でも、是非全国展開したいということがございまして、日本風景街道戦略会議という会議のメンバーもさせていただいております。

ですから、20年以上、風景街道の様々なところで皆さんと一緒にやらせていただいております。とは言え、昔話でここはこうだったなどと言うつもりはございません。でも、風景街道の大事なところは、それなりにあったかと思っておりますので、そのような当時の話もさせていただきたいと思っておりますけれども、年寄りが独り言を言っているわけではございませんので、その辺ご理解いただきまして、議論に参加させていただければと思います。よろしく願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。続きまして、五十音順でご紹介させていただきます

ます。株式会社キッチハイク取締役の川上真生子委員でございます。webでご参加いただいております。

【川上委員】 皆さんこんにちは。はじめまして、川上と申します。オンラインにて失礼いたします。3分ほどお時間あるかと思い、スライドを用意してまいりましたが、画面共有を願えますか。

【道路環境調整官】 :少々お待ちください。

【川上委員】 ご用意いただいている間に、今回委員にお声掛けいただいたきっかけとしては、国土交通省の二地域居住の流れからでして、二地域居住という観点で今回何かご意見できる場所があればと思っております。共有ありがとうございます。できるようになりました。今、映っていますでしょうか。

【道路環境調整官】 映りました。お願いします。

【川上委員】 ありがとうございます。

今お話ししていた二地域居住の保育部会のご縁から、今回この機会をいただきました。私自身が今、家族で福岡と天草の二地域居住をしております、その当事者としての視点も持ちながら二地域生活を推進する事業をしております。

今日はそちらにお伺いをしたかったですけれども、どうしても叶えませんが、実は、我が家の目の前はちょうど風景街道で、この赤い星のところが今いるところです。こちらが先ほど撮ってきた写真ですが、目の前にすごくきれいな海と山がありまして、毎日いいと思いながら生活しています。

キッチハイクっていう会社を初めて知ってくださる方が大半かと思いますが、私だけではなく、社員が全国あちこちに散らばりながら、地域暮らしの当事者として事業をつくっていくのが特徴です。

二地域居住のきっかけ、入り口として、保育園留学という事業にメインで関わっております。こちらは北海道でスタートして、私がある天草でも4年ぐらい続けておりますが、家族で地域の保育園に1週間から3週間ぐらい滞在して、地域と関わるきっかけをつくっていくという事業です。子どもにとっても、親にとっても、地域にとっても、良い事業だということで、様々な地域から、うちでもやりたいとお声掛けいただいて、今年度時点で全国約70地域、累計

3000名を超えるぐらいまで広がってきております。そのような知見を持ちながら、二地域居住に関わっていければと思っております。

二地域居住という点では、私がある天草で、今年度空路と二次交通による事業をスタートするということや、内閣府の地域未来交付金を活用して、様々な自治体と事業を推進していくことにも関わっております。国や自治体と連携して、地域に人の流れをどのようにつくっていくのかという、事業サイド、ビジネスサイドの視点から、何かお役に立てることがあれば、と思っております。

簡単ですが、自己紹介となります。どうぞよろしくお願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。続きまして、東京科学大学大学院 環境・社会理工学院教授の真田純子委員でございます。

【真田委員】 よろしくお願ひします。

私はもともと景観工学を勉強しておりますが、最近は農村の農業のあり方と環境の話と農村の活性化、それに観光も加えて、全てが繋がっていると捉えて、しかもそれが農村の話だけではなくて、都市との関係の中で農村の風景や、もともと過疎化が始まったのも、都市との関係の中でそういう問題が出てきたというところに着目しております。

消費者である都市の人たちの選択が農村の農業を規定しており、それが地方の風景にも関係しているというようなことを、「風景をつくるごはん」というタイトルで、2023年に本を出したんですけども、そういう分野に関わっております。それを石田先生に読んでいただいたところから、風景街道に声を掛けていただいたと思います。

もう一つ、石積みの取組に関わっておりまして、これは農村の棚田や段畑の石積みの技術が、ほぼやれる人がいなくなっているということから、私自身が石工さんに習って石積み学校を立ち上げて、全国で需要があるところに行ってワークショップをして、技術の継承と修復を同時に行うということをやっています。

メインは農地の石積みですが、農村部に行くと結構石積みがあったりして今後どうにかしていかないといけない。今、公共事業で空石積みを使うのは非常に難しいですが、今後重要になってくると思いますので、どのようにすれば公共事業で使えるようになるのかというような仕組みの研究も今やっているところです。よろしくお願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。続きまして、愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科教授の羽鳥剛史委員でございます。

【羽鳥委員】 皆さんこんにちは。羽鳥と申します。

私は土木計画学で、合意形成などの研究を続けております。風景街道は愛媛県の南いよ風景街道というルートの会長を仰せつかっております。

南いよ風景街道では、特に小学校とか子どもたちに風景街道の取り組みに関わってもらう部分を大学としても連携させていただいておまして、そのご縁もあって風景街道コミュニティにも声をかけていただいて、また北海道のシーニックバイウエイの委員も4年ほど前から務めさせていただいております。私自身がプレイヤーということではないのですが、比較的ルートの活動をされている方と近いところにおまして、この20周年を機にこのような検討があることは非常にありがたく思っておりますし、微力ながら何かお役に立ちたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。続きまして、一般社団法人シーニックバイウエイ支援センター理事・事務局長の原文宏委員でございます。

【原委員】 皆さん、こんにちは。一般社団法人のシーニックバイウエイ支援センターの理事で事務局長をしております、原と申します。

先ほど、石田先生からのお話もありましたが、北海道のシーニックバイウエイ設立から、主に活動団体というか現場の方を中心に活動団体と行政、活動団体同士、それから活動団体と企業の間に入りながら、中間支援的な活動を20年以上やってきております。

その後、NPO法人の日本風景街道コミュニティの理事をしておまして、これも石田先生が代表でございますが、全国で開催しております日本風景街道大学や全国的な交流などのお手伝いを、これもまた結構長い間やってきております。

比較的現場に近いところでやってきておりますので、今回の会議の中で活かしていければと思っております。また、石田先生もおっしゃられたように、私もちょっと未来ビジョンを考えるには歳が行き過ぎているのではないかと一瞬思いましたが、今までの歴史、時間軸も含めて、将来のことを私なりにこの会議やこれからの日本風景街道のために、少しでも力になればらと考えております。よろしく願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。続きまして、株式会社 Groove Designs 代表取締役社長の三谷 繭子委員でございます。Web でご参加いただいております。

【三谷委員】 こんにちは。株式会社 Groove Designs の三谷と申します。本日オンラインで失礼いたします。よろしくお願いいたします。

私も、川上委員のように地方で居住しております、広島県福山市に住んでおります。一番近い風景街道はしまなみ風景街道と思いますが、いつも通るたびに素晴らしい景色だと思って過ごしております。自己紹介ですが、私は2つ仕事をしております。一つは、先ほどご紹介いただいた Groove Designs という都市環境デザインのコンサルティングです。例えば、風景街道のことで言うと、地域の主体の方たちの協働によるまちづくりを支援するといったところを中心にしたリ、官民連携や様々な主体が協働で公共空間を使いこなして、街なかを良くしていくための業務を中心に、様々なエリアに関わらせていただいております。

もう一つ、主な事業としているのが、大和建设という会社の建設会社の経営をしております。それはまさに、地域のプレイヤーとして地場に根付いた建設業の専務取締役として経営に関わっているのですが、道路もやはりインフラの一つであり、インフラという機能は非常に大きいと思いますので、そのような地域の守り手としての建設業が、どのように役立てるのか、という視点も持ちながら参加させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【道路環境調整官】 ありがとうございます。

委員のご紹介につきましては、以上となります。なお、事務局の出席者につきましては、配席図に代えさせていただきたいと思っております。続きまして、本会議の規約案につきましては、事務局からご説明をいたします。

【交通安全政策分析官】 道路局環境安全・防災課分析官の田中でございます。

それでは、今日1回目ですので、規約の案ということでご説明したいと思います。内容を簡単にご説明します。第1条では名称を、第2条では目的ということで、今後の日本風景街道のあり方及び施策の方法について意見交換及び検討を行い、この成果を施策展開に資するようなことを目的として行っております。第3条が検討事項、第4条が構成ということで、本日も参加の皆様を構成委員としております。また、座長を指名することができるようにしております。座長は、事務局の推薦及び委員の確認により定めることとしております。第6条は会議の開催で、第7条は委員以外の者の出席について定めております。第8条事務局は、道路局環境安全・防災課が行うこと。そして、議事の公開としては、会議は原則として公開することとしております。簡単ですが、規約の説明は以上となります。

【道路環境調整官】 それでは、ただいまの規約案につきまして、何かご質問などございますでしょうか。それでは、ただいまの規約のとおりとさせていただきます。

それでは規約の第5条に則りまして、座長を選任したいと思います。事務局からは石田委員を推薦したいと思います。委員の皆様のご意見などございましたら、ご発言をお願いします。

それでは、ご確認をいただいたということで、座長は石田委員にお願いしたいと思います。つきましては、これより先の司会進行につきましては、石田座長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【石田座長】 改めまして、只今座長に選任いただきました石田でございます。

議論の整理をしてみたいと思いますので、よろしく願いいたします。今日は第一回の会議ですので、これまでの風景街道のことや目的などについて事務局から複数の資料をご準備いただいております。資料2、3、4とございますけど、一括して説明いただいて、まとめてざっくばらんにご討論いただきたいと思います。

なるべく討論の時間を長く取りたいと思いますので、説明は短めにお願いしたいということと、第1回目でございますので自己紹介させていただきましたけれども、さらに様々なご意見、ご注意、ご希望等いただければと思いますので、ぜひ積極的にご発言いただければと思います。

【事務局】 まず、資料1では、この未来ビジョン共創会議の設立趣旨を示しております。今日は時間がないので、最後の2段落を読ませていただきます。

「今後の風景街道は、地域主体の自主性を尊重しつつ、国及び地方公共団体等がより明確に支援・伴走する体制を強化し、「もっと繋がる風景街道」へと発展させていくことが求められる。本会議は、こうした認識の下、有識者や関係機関等の多様な知見を踏まえ、風景街道の価値向上と持続的発展に向けた方策について検討を行い、2027年に20周年を迎える日本風景街道について、今後の10年間を見据えた施策展開につなげることを目的として設置する」ものでございます。

次の2ページ目をご覧ください。今後のスケジュールということで、大きな流れについてご説明いたします。

本日、第1回の会議で、風景街道の現状と課題、今後の進め方を議論していただいた後、第2回は地方開催をしたいと考えております。風景街道の現地視察をしながら、提言内容や具体的

な施策の議論をしたいと考えております。第3回は、9月から10月と書いておりますが、後ほどまたご説明いたしますが、学生の意見なども把握したいということで、大学生などによるワークショップなども並行して開催していきたいと思っております。このワークショップでの議論内容について報告しながら、提言の内容について議論していきたいと思っております。その後、必要があれば追加開催などしながら、年内にこの共創会議としての提言を取りまとめていきたいと考えております。

取りまとめた提言は、毎年実施している日本風景街道全国意見交換会の中で、報告できればと考えております。それ以降も、こちらの会議は定期的開催いたしまして、取組の継続的な改善や提言のフォローアップ等を行いながら、この日本風景街道の取組を進めていきたいと考えております。

続いて、議事の2番目、「日本風景街道の現状と課題」ということで、資料を元にご説明させていただきます。

ページをめくっていただいて、右下4ページとしているところですが、日本風景街道の目的ですけれども、道路ならびにその沿道などを舞台に、多様な主体による協働のもと、こちらの写真にもありますように、美しい景観だったり、自然、歴史、文化等の資源を活かして、地域の活性化、観光の振興に寄与することを目的に、実施しているものでございます。

5ページ目をご覧ください。具体的に、どのような枠組みになっているかと言いますと、このような地域活性化、観光振興、美しい国土景観の形成のために、多様な人、多様な主体が協働して取り組んでいるというのが、日本風景街道の特徴となっております。左下に示している日本風景街道パートナーシップですが、地域住民や企業、地元の自治会など、様々な関係者と道路管理者が連携しながらパートナーシップとしての取組を進めております。

活動の概要もこちらのページの右下の図にお示ししておりますが、道を軸にして、道の外でも取組を広げているということで、特に市町村などの行政界などを超えながら、道を舞台に様々な取組をしているということが、この日本風景街道の特徴となっております。

6ページ目をご覧ください。これは、日本風景街道として登録されているルートマップとなっております。北は北海道、南は沖縄まで、全国で現在149ルートが登録されています。

7ページ目をご覧ください。こちらは、これまでの登録ルート数の推移とこれまでの経緯となっております。この風景街道は、平成19年に登録が開始され、93ルートから始まっております。その後、平成23年には、NPO法人日本風景街道コミュニティが設立され、活動の支援体制なども整えております。登録開始から約10年経った平成30年には、有識者懇談会による

「日本風景街道の発展に向けた『提言』」が出されております。後ほど、またご説明いたしますが、その提言を踏まえて、全国意見交換会を開催したり、ポータルサイトについて議論したりしながら、取組を進めているところでございます。昨年度末には、日本風景街道コミュニティの方から、日本風景街道20周年に向けての「提言」が出されまして、それを踏まえて、今回の会議で議論を深めるという形で進めているところでございます。

8ページ目にまいります。こちらが、平成30年に出された有識者会議による提言でございます。日本風景街道の登録が始まって10年が経ったことを踏まえまして、課題を整理し、今後の方向性についてまとめたものでございます。左下のところ、課題としては、停滞が見られるパートナーシップがあるとか、「日本風景街道」の認知度が低い、あるいは自治体との連携が不足している、好事例や助成制度の共有が不足している、賃金・人員体制が不足している。これらのような課題があったことを踏まえまして、右側は、発展に向けた具体的取組の方向性ということで、大きく3つの柱、「活動の活性化」「交流連携の推進」「活動環境の整備」、それぞれの柱に従って様々な取組をしていきたいと思います、という方向性を打ち出したところでございます。

続いて、9ページ目をご覧ください。こちらは、その提言を踏まえて、それまでの10年、さまざまな取組の状況についての概要になっております。左側は、取組の項目で、右側は各項目に対する代表的な取組と実施状況を示しております。例えば、景観の整備・保全であれば、ビューポイントを整備したり、自転車の通行空間等の整備をするということを書いておりますが、全体149ルートのうち、例えばビューポイントの整備であれば、15%の取組に留まっている状態になっております。また、案内看板等の設置であれば、約30%のルートで、情報発信であれば、各ルートの情報ポータルサイトが約20%のルートで実施されているような状況になっております。その他、データをご覧くださいますと、例えば、インバウンドへの対応として、多言語化であれば約10%の取組状況となっております。また、活動環境の整備の方では、例えば表彰制度の導入ということで、地方協議会の表彰実施は約60%の取組となっておりますけれども、まだ全国表彰の導入には至っていない状況になっております。また、資金の調達という観点で、道路協力団体の活用も行われておりますが、日本風景街道における道路協力団体の指定拡大は、まだ10%に留まっております。

全体として、多様な主体による自主的な取組ということを中心に、どちらかと言うと、現場任せの状況になっておりまして、取組がなかなか進んでいない状態になっているのが課題でございます。

続いて、10ページ目をご覧ください。「能登半島絶景海道」ということで、風景街道の新た

な役割として、復興の支援が行われてきております。この能登半島絶景海道であれば、地図でご覧いただきますと、黄色く塗られているところ、能登半島沿岸をぐるっと回る道路について、滞在型の観光、道の駅の強化、サイクルツーリズムの活性化、風景街道の魅力あるコンテンツの充実などによって、この日本風景街道の取組が新たな役割を担ってきているような動きが、能登半島でございます。

そのようなことを踏まえまして、11 ページ目、「もっと繋がる風景街道」ということで、2027 年に創設 20 周年を迎えることを踏まえまして、先ほどの能登半島の復興を含めまして、様々な政策課題に連動した取組を、この日本風景街道でつなげながらやっていこうという方向性を打ち出して、検討を進めているところでございます。具体的には、サイクルツーリズムやカーボンニュートラル、インバウンドなど様々な政策課題がございますので、そのような政策課題に関する取組を強化していこうという方向で進めていきたい、と考えております。

続いて、12 ページ目ですが、先ほどもご説明いたしましたように、日本風景街道コミュニティからも先日提言をいただいたところですが、こちらの日本風景街道コミュニティは平成 23 年に創設されました。全国の日本風景街道の活動団体間の連携、活動の促進、日本風景街道の情報発信、各ルートの活動支援などを目的に設立された団体でございます。その他、全国で活動されている方々を集めて好事例を共有するような日本風景街道大学の取組であったり、風景街道の広報などの取組を具体的に行っておりまして、本日ご参加の石田委員、原委員、羽鳥委員も理事になられている取組となっております。その風景街道コミュニティから、この 3 月にいただいた提言を、13 ページに載せております。

こちら、日本風景街道 20 周年に向けての提言ということで、具体的な提言が右側に示されておりますが、大きく 4 点いただいております。1 つ目が、「国の重点施策への日本風景街道の積極的関与を進める仕組みづくり」ということで、国の政策の中に日本風景街道を明確に位置付けましょうということです。2 つ目が、「日本風景街道の地域的活動とその広域連携を強化・推進する仕組みづくり」ということで、平時は地域の魅力向上、非常時は復興を支えるソフト面でのインフラとして機能させるべきではないか、全国ネットワークをもっと強化すべきではないか、というご提言をいただいております。3 つ目は、「日本風景街道の中間支援・伴走支援の仕組みづくり」ということで、地整や事務所の積極的な関与をもっと進めていく、あるいは、継続的に活動を支える体制を整備するといったことをご提示いただいております。4 つ目は、「NPO 法人日本風景街道コミュニティの役割や活動の明確化と重点化」ということで、全国的な展開と各地域で目指す取組を分類し、取組の支援、あるいは制度上のパートナーとしての位置付けを明確にする、こういったご提言をいただきまして、それを踏まえて議論を進めていく

ということでございます。

14 ページ目以降は、今日はお時間がございませんので、日本風景街道のこれまでの取組ということで、主な事例について取りまとめております。本日は簡単なお説明とさせていただきますが、美しい国土景観の形成に関する取組や、地域固有の風景・物語の発掘による地域活性化の取組、あるいは、観光・交流の促進を、また二地域居住や定住に関する取組、インバウンドの対策としての取組として英語表記の看板や多言語のパンフレットを、また脱炭素や生物多様性に関する取組、情報発信に関する取組ということで風景街道のロゴマークを使っている事例、交流連携の取組ということで道の駅との連携や全国意見交換会の実施などを整理しております。また、活動環境整備としては、地方協議会の活動や道路協力団体の活用を、ご参考までにお示ししております。

以上が、日本風景街道の現状と課題に関するご説明でございます。

続いて、資料3の「日本風景街道 道路局からの提案」について、ご説明させていただきます。この提案については、カッコ書きにしておりますが、道路管理者の観点から、直接的に取組や支援が可能ではないか、というものについて、主なものをピックアップしたとご理解いただきたいと思っております。

次の25 ページ目ですが、只今、田中分析官からご説明いただいた通りで、「もっと繋がる風景街道へ」というところで発展させていくために、下に図でお示ししているように、国及び地方公共団体等が明確に支援・伴走する体制を強化してはいかがか、と考えているところでございます。

続いて、26 ページ目にまいります。その推進の体制について基本的な構造ですが、図に示す2つの枠組みを相互に補完させながら展開していったらいかがか、と思っております。こちら「連携型」としている左側は既存の枠組みでございまして、当然これまでと同じような取組をずっと続けていきたいという方々もいらっしゃいますので、そのような枠組みをしっかりと残してまいります。また、右側で「推進型」としているのは、災害復興や観光、二地域居住などの政策課題、人材育成等の実証・実装の場として位置付けて、国が一定の目的の元で様々な提案をさせていただきますして、重点的に伴走・支援する枠組みを新しくつくったらいかがか、と思っております。当然、これら2つの枠組みについては、新設の「推進型」でとりあえず取り組んできたけれど、やはり元に戻したいということであれば、元に戻っていただければ良いと思っておりますし、既存の体制から新しく推進型として取組を始めたいというルートがあれば、そのように移行していただいても構わない。そのような意味で、相互の移行を可能にし

ていければな、と考えているところでございます。

このような様々な政策を推進するにあたって、27 ページ目、活動の可視化・インタープリテーション機能の強化についてご説明いたします。私も道路行政に 30 年関わっておりますが、いったい風景街道とは何ぞや、というところについて、もう少し伝わる形として強化すること、また、その伝えるためのプラットフォームをもう少し強化したらいかがか、というところでご提案を差し上げているところでございます。右の図にお示ししておりますように、この風景街道というものを道路利用者の方々にご理解いただいて、さらに利用を、参画を促進するという面、道の駅と連携する面、あるいは、企業と連携する面、大学と連携する面も踏まえて、現地の既存の道路空間にスポットを設けたらいかがか、と思っております。道路空間には、簡易パーキングや道の駅だけではなく、もっと小さい簡易パーキングも多々ございますので、そこをスポットとして風景街道で活用して、そこを中心に、例えばインタープリテーションとすれば、風景街道としてどのような活動をしているか、しっかり現地で掲示して、SNS や様々なツールを活用しながら伝える、また参画もしてもらう、というような取組を進めてはいかがか、と考えているところでございます。

28 ページ目が、そのスポットとして活用できそうな簡易パーキングの事例でございます。既に北海道では、少し活用が始まっていると聞いておりますが、このように道路空間には小さな駐車スペースと、景観や風景を楽しむ空間がございますので、そのようなところを活用したらいかがか、というところでございます。

また、29 ページ目では、インタープリテーションの事例と書いてございますが、今、国立公園地域で盛んに取り組まれているところでございます。下に、現在のイメージと今後といった恰好で書かれておりますが、パーツごとに発信するのではなく、統一のストーリーとして来訪者に理解していただくというような取組が進められているところでございます。

30 ページ目でございますように、どのようにしたら伝わるのかということについて、パーツをストーリーとして繋げる計画もつくって、国立公園の各地域では取組を進めているところでございます。是非、道の駅ではなくて、風景街道についても道の駅などと連携しながら、このようなストーリーについて、インタープリテーションの推進として、現地を含めて展開したらいかがか、と考えているところでございます。

最後に 31 ページ目ですが、人材育成及び知の基盤の強化ということで、風景街道コミュニティの皆さま方については、これまでも現地支援を含めて、様々な形で日本風景街道を支援していただけてきたところでございます。今後は、それをさらに発展し、「知と人材のハブ」として位置付けて、さらなる取組を有識者として取り組んでいただきたいな、と考えており

ます。さらに、そのような取組や現地での取組を含めて、地域の方々だけの取組だけではなく、国の方でしっかりと人材育成の取組、例えば日本風景街道大学のような取組もしっかり支援して、人材育成という面においても、国あるいは地方公共団体、今後は民間というものもあるかもしれませんが、そのような基盤の強化にもしっかりと取り組んではいかがか、と考えているところでございます。今後の取組の一例ではございますが、国土交通省道路局としては、是非このような取組を通じて、日本風景街道の発展に寄与してまいりたいと思っております。

続きまして、学生意見の把握ということで、資料4「ワークショップの進め方」をご覧ください。先ほどの資料1で、今後のスケジュールの中で取組にあたって、大学生などによるワークショップ等も行いながら進めていきたいということをご説明させていただきました。こちらの資料では、具体的なワークショップの進め方について整理しておりますので、ご説明いたします。

やはり、未来の日本風景街道の取組を考えるにあたって、次世代を担う若者の意見を反映させるというのは非常に重要であると認識しております。そこで今回、大学生をターゲットとして、ワークショップを開催したいと考えております。必要に応じて、民間企業や地域おこし協力隊などの参加や助言をもらいながら、実装可能性の高い提案にブラッシュアップするために実施するものであります。

具体的には、33ページ目をご覧ください。「これから10年の日本風景街道を考えていただいて、若い世代にとって「関わりたい、使いたい、誇りたい」仕組みになる具体像を描くこと」が大事であると考えております。そこで、今回のワークショップでは、4つの役割を期待しております。すなわち、「次世代の参加者・担い手を引きつける魅力の可視化」「発信・体験・ストーリーの再設計」「将来の仕事・学び・暮らしにつながる風景街道像の提示」「大人の会議では出にくい前提破壊・率直な疑問の提示」です。これらを期待しながら、具体的には、単なる参考アイデアにするのではなく、次世代当事者としての大学生からの提案として、しっかりと整理していきたいと考えております。

34ページ目をご覧ください。こちらのワークショップでのテーマ・検討事項として、大きく5点を設定して議論をしようと思っております。想定するルートは、自分たちが暮らしているところ、あるいは訪れたことのある具体的な風景街道を念頭に置いて検討していただき、また、検討にあたっての立場として、観光客、地域に関わる若者、あるいは将来その地域で働くかもしれない自分、ということ想定して、意見をいただきたいと思っております。

具体的なテーマは、こちらに書いている5点ですけれども、1つ目は、「若い世代にとって、

日本風景街道は『何が面白くないのか、どうやったらおもしろくなれるのか』ということ
で、例えば、どうしたら選ばれる存在になるのか、どうやったら行ってみたいと思われるよう
になるのか、などについて意見を聞きたいと思っております。

2つ目のテーマは、「風景街道を『体験できる場所・拠点』にするとしたら、何ができるか」
ということで、先ほどスポットというところで、様々な活動を伝えていく場にもしたいという
ことをご説明いたしました。若者にとっては、簡易パーキングで「何が分かり、何が感じられ
る」と面白いのか、ということ。風景や自然、歴史を伝える場合、どのような方法や内容が良い
のか、などについて意見を聞きたいと思っております。

続けて、35 ページ目をご覧ください。3つ目のテーマとしては、「若い人が関わり続けたく
なる『参加のしかけ』」ということで、風景街道ではボランティアで参加している方たちが多
くなっておりませんが、実際に若者が参加するには、お金のことなのか、学びやスキル、あるい
はどのようなものがあれば続けられるのか。社会人になっても関わる方法、あるいはインター
ンや副業などの関わり方について、どのように関われば役立つか、嬉しいかなどについて意見
を聞きたいと思っております。

4つ目としては、「風景街道を『仕事・産業』にするとしたら、何が考えられるか」というこ
とで、観光以外の収入につながりそうなことは何か。食なのか、モビリティなのか、商品なの
か、あるいは誰が主役になると成り立つのか、若者なのか、あるいは交通事業者なのか。その
ような観点で、提案いただきたいと思っております。

5つ目としては、「若者から見た『未来の日本風景街道』の姿」ということで、10年後にど
うなっていたら誇らしいと思えるか、あるいは大人や行政に伝えたいこと、この未来ビジョン
共創会議で議論してほしいことなどについて、意見を聞きたいと思っております。

36 ページ目をご覧ください。ワークショップの具体的な進め方ですが、本日の会議終了後、6
月に入ってから参加大学の公募をしたいと思っております。1ヶ月ほどの公募期間を経て、下旬
には参加大学の選定を行ってまいりたいと思います。ワークショップの流れは右側にお示しし
ておりますが、風景街道の概要説明、現地視察なども必要に応じて実施しながら、ワークショ
ップ、ファシリテーターは国交省から派遣するとともに、地域の民間企業や地域おこし協力隊
などの参加を得ながら、進めていきたいと考えております。

ワークショップで議論した意見については、この未来ビジョン共創会議にて、参加大学生を
ユース委員に指名して、委員の立場としてワークショップの結果を報告してもらい、議論にも
参加してもらうことを予定しております。

資料説明は、以上でございます。

【石田座長】 ご発言いただければと思います。お願いします。

【真田委員】 道路局からの提案ということで、道路局ができることとして提案いただいたと思いますが、風景街道から見える風景となると、沿道の農業などが非常に重要になってくるので、農業政策や地域の第一次産業と風景街道の取組をどのようにつなげるかということも重要になってくるのではないかと、思います。

最初のご挨拶の時に世代交代が課題になっているというお話がありましたけれども、それを考えたら風景街道を目的にして風景街道をどうやって維持していくのか、持続的にしていくのかということ、どうしてもボランティアベースになってしまうということがあると思いますので、どのような地域をつくっていくのかということを考えて、そのために風景街道をどのように使えるのか、風景街道を手段として置いたときにどうなるのかという考え方も重要なのではないかと。

人が来てくれるというのも目指すところですが、人が来ることによってその地域は何を達成しようとしているか、来た人に何をしてもらいたいのか、それが地域のためにどうなるのかというような、あくまでも地域ファースト、どうしても観光みたいな話になると、来てくれる人にどう楽しんでもらおうかなど、観光客ファーストになりがちですが、それでは限界があるというか、お金を取っている施設ならそれで良いかもしれないが、風景街道の話になると、その活動をする人にどのように利益が還元されるのかという話を考えておかないといけないので、持続可能な地域をどうつくるか、そのときの風景街道をどう使えるかを考える、そういう順序が重要だと思います。

そうやって考えていくと、地域の観光の取り組みだったり、第一次産業だったりとか、そういうものを全部くっつけて考えることができると思いますが、それこそがインタープリテーションで言っていたストーリーになってくるのではないかと、思います。例に出していただいた国立公園のインタープリテーションについて国立公園は自然保護なので、誰が利益を得るのか、などの話は考えなくて良いですが、風景街道みたいな話になってくると、やはり地域の経済活動とかそういう経済的な持続可能性と環境的な持続可能性をどのようにその風景街道を巡る様々な取組の中に位置付けていくかが重要になっていくのかなと思いました。それが1つ目です。

もう一つは、ワークショップの進め方として様々なテーマを出していただけていますが、ここで少し重要ではないかと思うのは、今の価値観での観光客と地域との関係を考えると、やはり地域は最後選ばれるという話もありましたけれども、選ばれるためにどうするかというように、

それが地域間競争になってしまっていて地域の疲弊を生むという現実が起こっているようなことで、すけども、助長しかねないということがあるのではないかと思います。

せっかく若い人たちに議論してもらうのであれば、今後持続可能な社会が実現したとして、その時に人々が持っている価値観でもって選ばれる地域とは何なのか、今選ばれるのではなく将来的に持続可能な社会の中で選ばれる地域とは何なのか、という考え方をしてもらいたい。

なので、ワークショップの最初に、どのようなインプットがないと、なんかインスタ映えすることがいいよね、みたいな、すごいしょうもない提案で終わってしまう可能性が、せっかく若い人を入れたのに、そういう提案で終わってしまう可能性がある、と思いました。これが2つ目です。

3つ目は、これは風景街道にも関連しますけれども、風景街道の中で収まる話ではないのですが、先ほども言いましたように石積みの保全というのが、非常に重要になってきていて、提案の中には、簡易パーキングとか国交省でできる話がありましたし、おそらく風景街道になっているところは道路附属物など高規格のものを使っているところは使うような感じになっているとは思いますが。そういうことはできるけれども、空石積み、伝統的なものを残すということが非常に難しい状況になって、そういうところが道路沿いだけではなくて、そこに見えている棚田なども非常に難しい状況になっています。それをどのように国交省として取り組むのかというのが、これは非常に大きい話にはなっていますが、誰かが始めないと、どこかの部局が始めないと始まらないことですので、是非検討してほしいなと思います。

この間、私、石積みを教えてくださいということで、ギリシャに呼ばれて行ったんですけども、そこで様々な人から、空石積みの技術というのは2018年にヨーロッパの8カ国が申請していたのが、ユネスコの無形文化遺産になっていて、それが現在までに13カ国に増えていて、5カ国この後追加されているんですけども、なぜ日本は入らないのか聞かれて、確かになと思いいこの間文化庁の人にお問い合わせしたら、空石積みの技術が保護対象になっていないから申請要求を満たしていませんと言われて、全然まだスタート地点に立っていないようなところがあるということで、様々な側面から風景のことを考えるのであれば、非常に使いにくくなっている空石積みについても検討していく必要があるのかなと思っています。

【石田座長】 ありがとうございます。

大事なポイントを何点か挙げていただきました。ちょっとだけ司会の特権を活かしてですね、今問題提起していただいたことに乗りたいと思いますが、資料2の5ページ目を映していただけますか。

昔話はしませんと言ったそばから昔話になってしまいますが、これ実は今も存続している日本風景街道戦略会議の主要なアウトプットの1つでございまして、水野課長の挨拶や提案の中にもありましたけれども、道路管理者はどのように考えるかということなのですが、ここで議論したことは、この地域活性化、観光振興、美しい国土景観の形成というものがあるのですが、道路管理者と言ってしまうと、道路空間、道路用地の中だけの話になりがちなんです。でもこれは昨年の道路法の基礎理念、追加によってかなり大きく変わったなというふうに思っております、そういう意味では今、結構いいタイミングかなと思っております。右下の絵をご覧くださいますと、中心となる道路って書いてありますが、ほとんど書いてあるのが道路用地以外なんです、海も川も山も電波も都市も。そういうところをきちんとやらないと、美しい風景とか活気ある地域は成長していけないっていう、そういう課題意識をこの絵は表現していると思っております、当時こういう絵がよく描けたなというふうに、今更のように思います。

それを実現するために、左側のパートナーシップっていう部分なんですけれども、道路敷内に権限があるというのですね、管理義務とか権限とか、そういう細々した話になるとそうなるのですが、左側を意味しているのはですね、地域のこれからにとって関心のある人、愛着を持っている人に仲間になってもらえれば、仲間としてそれぞれのところで様々な働きかけができるだろうということです。地域住民とか企業とか、公共団体とか、大学と道路管理者が共に舞台、プラットフォームを提供すると、どちらかという道路管理者が、それを日本風景街道パートナーシップと呼ぼうね、というのがございます。

ものすごく先進的な考え方だと思います。20年以上前にこういうことをよくできたなというふうに思うんですが、ところが、これも昔話になりますけれども、7枚目の年表なんですけれども、部外者だから引き続き言えるんですけれども、大事なものが抜けておまして、何かというと、平成20年、21年、ガソリン国会というのがあったことを覚えていただけるかと思っておりますけれども、ガソリン税を変なものに使うんじゃないということで、風景街道は変なものの中に入れてしまったという経緯があって、道路局の皆さんはやりたいと思っても、なかなかそういうことで縛られていた面もございまして、決して皆さんがサボっていたわけではないと、できる範囲で本当に必死にやっていただいたなというふうに思っております。今回はそれを、道路法も改正したし、社会情勢、災害、あるいは津々浦のますますの衰えなどが、皆さんの問題意識として非常に共有が高くなってきましたので、私としてはそういうことに関して、かなり突っ込んだラジカルな議論をしたいなと思っておりますので、真田先生からそういく口火の切り方をさせていただいて、非常にありがたく思いましたし、尻馬に乗せていただきました。

あの囚われることなく、またこの問題に関しても、ご意見などございましたらお願いしたいと思えます。長々と喋りました。すいません。はい。お願いします。それでは、会場から羽鳥委員でお願いします。

【羽鳥委員】 よろしいでしょうか。ご提案いただいた内容については、とてもいいなというふうに聞いていたんです。特に、この機会に風景街道の価値づけというか、風景街道っていうのはどういう今後価値を担っていくのかとか、どういう意義があるのかっていうのをしっかり確認をするというのはとても大事だなと。

そうなったときに、外部目線というか、これまで風景街道に関わってこなかった大学生も含めて、そういった視点から風景街道を捉えるという見方っていうのは大事だなと思っていたので、この提案はいいなと思って聞いておりました。

一方で、懸念というか、少し心配になったところとしては、一つは基本構造ですね。26ページにある、この連携型と推進型で、この中身については非常にいいなというふうに思っています。ただ、多分この辺りは相当議論された上なんだろうなと思うので、一意見として言わせてもらいますが、若干の分かりづらさというか、特に連携型のほとんどのルートが連携型になると思いますが、ただ実際この連携型も今後も推進はしっかりしていけないのかなというところと、私自身も今、南いよ風景街道で秋田のしろ白神のみちとか大分海への道とも連携をして、連携が非常に大事だっていうのが分かっているのですが、これ各すべてのルートがこう連携、どんどんやれる体力が今あるかという、少し心配です。今活動している人たちが若干これでプレッシャーに感じないかなっていうのが、気になったところです。言い方だけの問題ではあるのですが。例えば、こちら今日来る途中に言おうかと思っていたのは、こちらに書いてある資料で、例えば推進型政策、何という、政策連動型みたいな形で、連携型はどこかで地域共創と書いてある地域共創型とか、何かそのほうが実態に合っていないかなというのと、あとここにあるいは地域登録と国提案と書いてますんで、この辺りのほうが分かりやすいのではないかというのは少し思ったというところで、意見として言わせてもらいます。

それともう一点は、今と関係するんですけど、この風景街道の価値をしっかり確認していく上で、外からの目線が大事な一方で、やはりその当事者目線もしっかり大事にしたいなと思っています。その上で、このインタープリテーション、あるいは大学との連携っていう中に入っても良いですが、途中で風景街道が現場任せになっていて、それをもう少しサポートするような仕組みが大事だというお話がありますけれども、この機会にその仕組みのところですね、風景街道、やはりどうしても現場任せになるし、現場任せの良さが風景街道の良さでもあると思えますが、今の地域の実情を考えると、結構苦労しているところもあるので、この機会にその

当事者を伴走あるいは支援できるような仕組みっていうのも、どのような仕組みが良いかということ、彼らの意見もこの機会に是非聞けると良いのではないかと。それもインタープリテーション、あるいは大学とのワークショップの中に入れるか、別途入れるかは、少し議論の余地はあるかと思っております。

【石田座長】 ありがとうございます。続いてございましたらいかがですか。それでは原委員お願いいたします。

【原委員】 それでは今までやってきている中間支援とか伴走支援みたいなところを、少し補足させていただこうと思います。この資料の方で今回の設立趣旨の中にも書いてございますが、日本風景街道というのは、地域主体の自主性を尊重しつつというところで、私も実際に北海道とか、他の地域も少々見っていますが、各ルートが重点とする各ルートのルートストーリーというか、やりたいことは、非常に千差万別でございます。

ですので、それそのものを規制するということは、それは日本風景街道の根本が変わってくるので、やはりそのような地域のストーリー、地域の自主性を担保しながら、どのようにフレキシブルに支援、中間支援なりを伴走支援していくかというようなことがとても重要になってきて、なかなかそこが難しいと思います。

ただ、いずれにしても、そこは大事にした形の中間支援とか伴走支援の仕組みづくりを考えていく必要があるのではないかと思います。

資料の中の、この日本風景街道の発展に向けての提言の中にも出ておりますが、このような連携の推進の中で、道の駅との連携、同種活動との連携という中に、九州の道守ですとか、中国の夢街道ルネッサンスっていう、風景街道の前からあるような、そういう地域活動みたいなもの、実際、九州の方で今、道の駅と道守と風景街道が連携する「3つの輪」みたいな形の動き方をしていますので、そういったものを何かうまく全体を取りまとめながら、中間支援なり、伴走支援していく仕組みっていうことが重要ではないかと思うので、その意味では、この中間支援の伴走支援の在り方も、現場的には、ある程度、地域の実情などを反映させた形の支援のあり方ということを考える必要があるのではないかと考えます。

その上で、今回の道路局の提案部分で、先ほどの羽鳥先生からのご意見もありましたが、連携型と推進型という形で積極的に支援していこうという部分、そのこと自体はすごく良いと思いますが、中に書いてあるのを見ると、もちろんそのように実施するのだと思いますが、既存の連携型も、推進型も、その伴走を支援する枠組みの強化という部分は、そこは両方ともベ-

スとしてやっていただく方が良いのではないかと思います。

その上で、その推進型なり、そこを重点的にやるというのもなんですが、その連携型の方も中間支援や伴走支援の仕組みづくりっていうところを、もっと少し力を入れてやって、底上げしていくということも重要ですので、そこはある意味、既存新設、両方含めて考えていくようなことの方が良いのではないかと個人的には感じます。

ですので、そうなったときに、やはり人材というか、中間支援なり伴走支援するということになったときに、そのことを生業にして、人材としてそういうことをやれるという状況というのは作るのが大変なので、そういうことも含めて、その人材育成なり、その支援機関なり、仕組みなりというようなことも考えておく必要があると思います。

【石田座長】 ありがとうございます。webでご参加のお二人、川上委員、お願いします。

【川上委員】 よろしいですか。同じタイミングになってしまいました。では発言をさせていただきます。

今回、私初めてこの日本風景街道に関わらせていただくという立場なので、あえてフレッシュな視点で見ていけたらという気持ちでお伺いをしておりました。その時に、なぜこの日本風景街道に取り組むのかというところが、自分の理解のためにも改めてというところで聞いていたんですけども、ここがまさに資料 p.5 の、理念目的のところにあるところかと思います。これを私なりに解釈をしたポイントが2つあって、一つは観光だったり、二地域居住だったり利用する人を増やしていくというところ、もう一つがその保全等の活動に関わる人を増やしていく、その2つなのではないかと思いました。

冒頭、真田委員が発言されたときに、そうだなと思いながらお聞きしていましたが、その時に日本風景街道っていうこと自体は手段であって、その手段をうまく使いながら関わる人を増やしていくっていう目的に向かっていくってところが大事なんだろうなと捉えています。日本風景街道という活動の名前自体や、それを広げていくということは必ずしも重要ではなく、その一つ一つの風景街道、地域を、仕事しながらそこをしっかりと広げていくというところが重要なんだろうと思っています。

冒頭、私の家の目の前が日本風景街道だったという話もさせていただきましたが、実は今回このご縁をいただくまではそのことは知らなかったんですけども、それ以前から私にとっては目の前の風景はとても素晴らしいものですし、愛着がある街道だった、そういう思いを持った方が増えていくということが大事なんだろうなと思っています。

これまでの20年間の取組と、ここから10年間っていうところで、やはりこの取組も未来に向かって意味のあるものにしていくってところが非常に重要になるとなったときに、ここからまさに議論をしていくところだと思いますが、KPIの設定がとても重要と思っています。

前回、10年前ですかね、設定されたスライド9ページ目の提言のところでは各項目があって、残念ながら達成できないものもそれなりにあったというところがありました。ここをどういうふうに設定して、ここからの10年取り組んでいくのかというところが非常に重要だと思っています。この平成30年の拝見した時に感じたことは、アウトプット目標と言いますか、それをやるっていうところがあって、ただ、その先のアウトカムで、では実際どのぐらいの人が日本風景街道を使うようになるのかというところまでは、なかなか見えてこないというふうに感じています。どういうふうに計測するかとか、そういったところもあるんだろうとは思っています。冒頭に自分なりに整理をした観光等で来る人、あとはその保全等に関わる人が、どのぐらいこの10年で増えるのかっていうところをしっかりと見据えながら、目的に向かってやっていけるといいんだろうなと考えております。その時にもう一つ重要だろうと思うのが、やはりこの取組みを持続可能なもの、実行力があるものにしていくというところで、どうしても我々も日頃からいろんな地域の事業者さん関わらせていただきながら事業をしていますけれども、どのように事業の財源を確保していくのかっていうところは、どうしても現実問題として起きてくると思います。

その中で、今回、国としてのご支援をというところもあるのかなと思いつつながら、この日本風景街道関連の財源だけではなくて、例えば内閣府の地域未来交付金だったりとか、それこそ二地域居住関連の財源でしたりとか、あとは総務省のふるさと住民登録制度とかもかなり密に関わってくる領域かなと思うんですね。そういったものもうまく接続させながら、その取組をしっかりと継続的にやっていくってところができるといいのかなと考えております。ばらばらとお話してしまいましたが、以上となります。

【石田座長】 ありがとうございます。三谷委員、いかがでしょうか。すみません、お待たせしました。どうぞお願いします。

【三谷委員】 ありがとうございます。私も今回初めて参加をさせていただきまして、委員会に参加させていただくことになって、日本風景街道という枠組みのこと自体もしっかり調べて初めて知ったところもあるんですけども、本日の議論も踏まえながら私なりに、日本風景街道という枠組みがあることの価値とは何かと思いつつながらお話をお聞きしていました。

風景街道とは、ただ見晴らしのいい景色があるとか、自然環境が豊かだということだけではないという点、今までのご説明の中でも非常に感じたところですし、自然環境の景観というところと、あとやっぱり人の営みの景観っていったところが合わさって、このような風景というものが出来ていくと思うんですね。協働的な部分では、関わる人をどう増やしていくかっていうところも、今回の委員会の中の一つの大きな論点かなというふうに思うんですけども、やはり風景って言ったり、個人的な感情ですとか、いろんな心理的な思い入れがあって、それがやっぱり美しいと感じられるとか、特別な眺めになっていたりする、その地域ですとか、道に愛着が湧いていくというところを、風景街道として目指されているのかなと思うところもありますので、そこを目指していくためのプロセスを議論していけると良いのかなと、改めて感じました。

そのような上で、あの風景街道に指定されている道の上で何が起きているかということも、もちろん大事だと思いますが、道で、今回の風景街道においては、真田委員が言ったように、私たちの持続性ですとか、これからの地域のあり方というところの根幹のところと接続するところだと思いますので、この風景街道自体は繋ぐものというルート、地域の資源や活動を繋いでいって、それを面にしていく、線にしていく、ルートを繋いだということなのではないかと感じました。

ですので、今回の議論ですとか、取組、どういったものを支援していくのかというこのルートの線の上だけではなくて、周辺の点をどのように拾っていったって、それを価値ある線にしていくのかというところ、そこを重点的に拾い上げていけると良いと思いました。

もう一点なんですけれども、ワークショップについては、今のテーマや検討事項のたたき台のところをご説明いただいたんですけども、このテーマと内容の検討事項のところ、少し手段など、各論ベースになっているような印象を受けました。

おそらく風景街道自体を知らないですとか、たぶん私のように風景街道の価値ってなんだろうって結構、少し考えてもらうっていうふうなところもあるかと思いますので、例えば導入のところと学生さんたちが、その自分と道の関係性、思い出を聞いてみるとか、まず自分とその風景街道なりの心象的な部分というところを少し紐解いていくワークを入れるとあっていうふうに、少し細かい話なんですけれども、紐解いて丁寧に、少し本質の部分も含めて議論していくと、すごく次世代の方たちに入っていただく意義っていうものが出てくるのではないかと思います。

【石田座長】 ありがとうございます。一通り委員全員からご意見いただきましたけれど、

ちょっとだけ補足させていただきます。

私の感想を述べさせていただきますと、風景街道の価値って何なんだろうかという極めて大事なこと指摘をいただきまして、そこで大事だなと思っておりますのは、どこに書いてあるか、インタープリテーションというキーワード、極めて大事だと思います。

インタープリテーションって何かというと、よく最近コマーシャルでプライスレスをどう評価するかというのがありますよね。あの地域の人の思い出とか愛情とか愛着とか、あるいは歴史とか文化というのはなかなか入れ込み客数とか、何人来たとかで表現できないものだと思います。その費用便益分析、ちょっと硬い話になってしまいますけれども、道路事業の評価とか公共事業の評価とか費用便益分析っていう経済一本槍でやっているわけです、極端に言うところ。そうではなくて、プライスレスの世界をどのように共感していただくかということが、インタープリテーションだと思っております。それは、極めて風景街道とか、あるいはこういう地域づくりの価値・目的に、ある意味直結するところかなと思っております。そういうことを、いかに考えるかというのが極めて大事だなと、私はそう思っていますが、何かご意見やご反応がございましたら、ぜひ聞いてみたいと個人的に思っています。いかがでしょうか。委員の方だけではなくて、道路局の方も是非、お願いしたいと思います。

【羽鳥委員】 このインタープリテーションの話は、そういう意味では手続きも大事で、これをまさに地域の思い出とか歴史をどのように発掘させるのかというプロセスも、地域に住んでいる人も、今回それを機会に外から来る人にも入ってもらって、みんなでこの簡易パーキングのデザインを考えて、この地域ならではの固有の資源とか価値などを再認識する場になると非常に良いのではないかと思います。

【真田委員】 地域の良い風景などというのは、景観法などができて、ちょうど多分同じくらいの時期だと思います。景観法ができたのは2005年なので、そこから景観計画がいっぱいできていて、だから風景街道になった後にいろんな地域で景観計画ができたりとかしたところも多分多いと思います。なので、いい風景の発掘とかその保全とかというのは、結構ある程度進んでいるようなところはあるのかなというふうには思いますが、どういうふうにつなげていくのかというような、産業とかで、実際にその一つになるというか、活動を一緒にして行って、そこに活動に参加する人たちにとってもメリットというか、やっぱりボランティアベースだけに限界があるので、どういうふう地域づくりにこの風景街道を活かしていくかというようなことを考えていけないといけないのかなというふうには思っていて、そういう計画を作る時のガ

イドラインというか、どういうことを考えながら、どういう情報を集めて、どういう配慮をしてというような、その計画づくりの、その地域のインタープリテーション機能というストーリーを作っていくときに、フレームワークというか、そういうものをちょっと考えてみるということもあっていいのかなというような感じがしました。

【石田座長】 ありがとうございます。

【環境安全・防災課長】 私の方からいいですか。

【石田座長】 どうぞ。

【環境安全・防災課長】 いろいろご意見を聞かせていただいて、特に道路管理者というか、実務の面から申し上げさせていただきます。ご意見もありましたが、風景街道は一つのツールであって、全体としてはまちづくり、地域づくり、あるいは国土づくりの中で風景街道というものをどう活かしていくのかということが大事だよということは分かるのですが、では風景街道って一体何なんだということについて、原さんからご意見ありましたが、地域によって千差万別の取組をしているというところがあって、風景街道というものをどのように使っていけばいいのかということについて、もうすでに風景街道がある地域は一定程度の理解があるかもしれないですけど、これから新しく取り組んでいこうというような地域において、なかなか取組みづらいのかなという気がしています。

そうした中で、今日の提案は本音ベースで単純に申し上げますと、そうした風景街道について、もっと武器を持った方が良いのではないかと、ということです。一つにまとめる必要はないんですけど、風景街道といえば、こういうようなツールの中でもツールを持っている。あるいは、こういうことができるんだというものが、柱としてないと、皆さん使いづらいんじゃないのかなというふうに思っているし、そうした大きな視点でのまちづくり、地域づくりといったときに、位置づけづらいんじゃないのかなというふうに思っていて、その一つの武器として、今回このスポットだとか、そういったものを提案させていただいたところでございます。今私が話したことを考える上で、皆さんの共通意識としても多分議論しなくてはならないのは、じゃあ例えば風景街道、今149ルートあります。KPIという話もありましたが、じゃあ10年後に149ルートといったものが、じゃあ何ルートになるのか、それはKPIじゃないよと言われるかもしれないですけど、例えばこの149ルートを300ルートにして、全国のまちづく

りに使ってもらおうというような方向性を持つのか、いやいやそうではなくて、風景街道というものは150ルートぐらいが適切な規模であって、その中で質の向上をやっていくんだというふうに思うか、それによってもだいぶ今後の組み立て方って違ってくるのかなというふうに思っています。

私が思うのは、劇的に増えていかないんだと思いますが、150ルートをもっともっと伸ばしたいなというふうに思っています。最初の課題、現状と課題っていう中での7ページ目を出してほしいんですけど。今現在149ルート10年前ぐらいから比べてなんだという10ルート増えた、10ルートも増えたというか、ほとんど増えてない、と考えるのかということも重要な視点で、私、最初の冒頭のご挨拶の中で申し上げたんですけど、今後の特に防災課長というところもあって、災害として、そこからの先と復興といったことを考えたときに、風景街道の活動のつながりがあって、地域の復興って考えたときに、非常に大事なつながりがあって、そのつながりといったものを全国各地に広げてきて、全国各地で災害が起きる可能性があるわけですが、災害が起きた時には、災害時には道の駅を拠点にして、いろんな支援活動をする。その災害がおさまって、復興といった段階になった時には、風景街道という場を使って、つながりを使っていただいて、地域のまちづくり、そういったものを活性化していくといったものにつなげていきたいので、もっと増やしていきたいなって思っているのが、私の思いであるので、この辺の認知が、多分いろんな意見があってもいいと思うんですけど、この日本風景街道といったものが、どれだけ広がればいいのかなんて思っているのか、皆さんどう思っているのか、今日初めて風景街道を知ったって方々もいましたけど、なかなか考えづらいのかもしれないですけど、そういったことも考えながら、皆さんで議論していただければなというふうに思います。

繰り返しになりますけど、風景街道はツールであって、まちづくり、地域づくり、国土づくり、それはすごい大事だと思いますが、実務を行う面として、風景街道といったものをツールとして使うために、何か芯として使うものが、武器が重要なんじゃないのかなと思って、今日提案をさせていただいた、ということと、10周年目の提言を見ていただいたらわかると思うんですけど、10年目の提言をいただいて、やはりこのもう10年、言い方が悪いとは思いますが、ほとんど物事が進んでいない、それが良かったのかどうなのかというところはあるんですけどそういった現状を考えると、もう少しこの10年何をするのか、していくのかといったところをもう少しイメージ合わせとやれることを絞りながら、KPIって話がありましたけど、目指すところをもう少し皆さんのイメージを固めて、もう少し目指すところを絞りながら議論していかないと、10年前の提言のように、いろんなものをやっていきたいと思いますというのだけで

終わってしまったら、そこは今回もったいないなというふうに思っているというのが、ちょっと私の思いではあるというところでございまして、今日の提案からも見て取れると思うんですけど、ぜひ今後の議論の中で、皆さんの中でも、こう、斟酌していただけるとありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

【石田座長】 いかがでしょうか。ちょっと私から、いいですか。原さんが風景街道ってバラバラとおっしゃったのですが、活動の形態はバラバラだけど、根本にあるものは本当に一致していると思うんですね。それは住んでいる地域、関わりのある地域、愛情のある地域を何とか良くしたいという風に思っておられる、それを実現するための活動が風景街道の最も根っこになるのではないかと、思います。

そういうところからすると、本当にこの風景街道プロジェクト自体も本当に手段ですし、他の省庁の類似のプロジェクトは結構あるわけです。観光庁に類似のものもありますし、農水省でもありますし、環境省もありますし、あるいは同じ国交省の中でも国土形成計画の中にもありますし、そういうところできちんとできれば、別にこの風景街道でなくても良いのではないかと、そう思わなくもありません。正直言うと。

ですから、その根っこのところをどう実現するか、そこに向けての大事な武器って何なんだろうかと、そのような考え方をすると、やはり、そういう思いでどのように共感して、どのように仲間になってくださるかということが極めて大事だなと思っています。それで、非常に具体的に申し上げますと、資料の28ページ、簡易パーキングという、これはこういう物理施設があるよというご紹介だけなんだろうと思いますが、インタープリテーションからちょっと程遠いんですね。何も語っていない。そういうことをどうするのかということ、例えば具体的に議論するというのは、何か一つ非常に見えやすい議論であったり、成果になったり、というところになるんですね。

そのことについて非常に具体的な体験談、一つだけ申し上げたいと思いますが、一つはですね、二年前に原さんとご一緒したのですが、アメリカのコロラド州のところで風景街道の見学に行きましたら、こういう休憩施設のところにですね、展示機能が充実しておりますですね。何かというと、この地形はどういう経緯でできたか、造山活動やそこから時を越して、そこにどういう人が住んで、どういう活動をしてきた結果、現にあなた方が見ている景色があるんだ、というのをじっくり読んでみると、多分30分から一時間ぐらいかかるぐらいの展示がこういう場所にあって、そういうことをやらんといかんとねって思いました。

それで、道路局からの提案として能登半島絶景街道がありましてですね、この一枚紙には

書かれていなくて残念なところではありますが、少しだけ知識を披露させていただきますと、能登半島地震ってずっと繰り返し起こっているんです。数十年か 100 年間の間で、その都度、外側の地域が隆起するんですね。今回は随分隆起をいたしました。そういうことが景観の中で分かるものがあって、隆起して、あのまっ平らなところを、本当に賢く使われているんですね。それが何かというと塩田であったり、あるいは、平野みたいになっているところの水田であったり、そういう景色をしたたかに使ってきたっていうのが、目に見える景観としてあるんだけど、残念ながらそういうインタープリテーションが未だに無いんです。たぶん、そういうことがいろんな意味で、その土地土地の歴史とかっていうことになるのです。

当初、このことについてよく考えましたけど、日本風景街道と言っているけれど、風景っていったい何なんだろう。こう思いますと、ちょっと見てみて、雄大な風景っていうのは、誰もそうなんだけど、もっと大切なことは、いろんな地域の元気とか、活力とか、愛情の衰えが風景に現れるのだらうということです。そこをシンボリックに捉えるようなところが日本風景街道だろうな、ということをおもいつきまして、自身なりに納得しているのですが、そういうことを広めていくために何をすれば良いか、それちょっとどうこうとか申し上げにくいこともあるんですけども、国交省内の他の局との連携とか、先ほど申し上げましたように、農水省とか環境省とか経産省とか観光庁にも、よく似た、多分真似したんじゃないかという、もちろんそういうところとの連携って極めて大事だし、武器としても大事かなと思ったりもしております。長くなりましけれども、いかがでしょうか。

【真田委員】　すごく単純な質問なんですけど、この 28 ページのところに寄り道パーキングって書いてあるところがあって、私の記憶ではとるばっていうのがあったと思いますが、あれはなくなったのですか、それとも違う部署が担当しているのですか。

【環境安全・防災課長】　とるばも道路局でやっていて、あれは先進的すぎて、全国展開したのですが、そのまま放置になってしまった。ですから、今とるばを始めようと思ったら、皆さんスマホを持っているので、素晴らしい政策になったと思います。ですから、このとるばの概念も組み込みながら、とるばでパーキング的なものを作っているんで、一緒くたに風景街道で活用できるような仕組みの中に盛り込んだらどうかなと思っています。

【真田委員】　寄り道パーキングというのは、とるばをも含むんですか。

【環境安全・防災課長】 とるぱの空間も含みます。とるぱは写真を撮るという概念でしかなかったのですが、そこに、いろいろ議論ありましたけど、インタープリテーションの機能とか、あるいは他の民間の企業の活動みたいなものを入れても良いと思いますし、様々なプラットフォームになり得るということで、一つの目的に縛ることのない既存空間を活用という面で、この寄り道スポットみたいなものを提案させていただきました。

【真田委員】 ありがとうございます。はい、わかりました。

【石田座長】 三谷委員、手を挙げられていますよね。ご発言ください。

【三谷委員】 ありがとうございます。風景街道の例えば KPI ですか、どうなっていけばいいのかっていうところ、一体何でこれをどう使っていけばいいのかっていうところに関連して思ったことがあります。今回、もちろん風景街道自体が増えていくに越したことはないと思いますが、どういう観点で KPI を設定するのかという議論がやはり必要だと思いますし、それがどの道路管理者の中で、どのように位置付けられるのか、という点も落とし込んでいくと思います。風景街道に登録されたことによって、地域がどのような状態になれば良いのか、その風景街道の沿線がどのような状態になれば良いのかというビジョンを一つ形作ることが大事ではないかと思いました。

この会議の名前も未来ビジョン共創会議ですし、どのようなビジョンを持って風景街道をこれから運用していくのか、という点が重要かと思います。

分かりやすく単純に思ったのは、資料 2 の 5 ページにある活動概要にある図ですが、これを現代なりにアップデートしていくということ、かつ、やることベースというよりも、どういう状態になったら良いのかというビジョンベースで、それが見えてくると、じゃあ何をしたら良いのかという実施内容に落ちて来る、KPI を作っていけると思いますので、例えば、この未来共創会議のアウトプットの一つとして、これからの風景街道、風景街道に指定された路線というか道はこういう状態になっているのが良いよね、いうところのビジョンが一つあると、自分たちも風景街道をツールに使って、こういうことができそうだとか、こういうことになっていくんだというイメージが新たに湧くのではないか、と思いました。

【石田座長】 ありがとうございます。今のご意見に対してご意見ございますか。

【環境安全・防災課長】 道路局ですけれども、おっしゃったとおりで、この20年前に定めた理念、目的というところを、最新の目を見てアップデートしていくというのは本当に非常に大事だと思いますのでそのあたり、ぜひご意見いただいてアップデートしていければと思います。ただ、長く活動されてきた方もいらっしゃるし、なかなか変えづらいという面もございますので、決め切るということではなくて、様々な方向性を示すやり方もあるのではないかと、思っております。

少し歯切れは悪いですが、確かにこの5ページ目を見ると、少し最近の若者受けはしないような感じはするし、これを見て民間企業の方々が是非一緒にやってみたいとはなかなか思えないと思うので、その辺のところ、新たに加わった先生方の新しい視点も含めて色々と議論させていただければと思います。個人的に言うと、少し古くて、例えば道路局の若手職員の中でこれをベースに引き続き政策を進めてくれって言っても、なかなか難しいのではないかと、というのが感想です。

【真田委員】 そうですね、20年前と比べると、何が一番変わったかというところ、環境への意識です。20年前は景観計画ができた頃で、その計画も少し古いと言うか、見た目が良かったらいいよね、それをみんなで守っていきましょうみたいな感じで、かなり単純というか、フォトジェニックなものが良いという空気があったと思います。今はそうではなくて、学生でそういう人もいますけれども、やはり環境的なところが最初に出てくるような若者も増えてきているし、今後そういう人たちがどんどん増えてくると思うと、環境的な視点っていうのは絶対入れないといけないし、そういうのをボランティアベースで先にも言いましたけれども、守りましょうという時代でもなくなってきていて、どんどん人が減っているというのがありますし、活動している人たちが世代交代しなければ、その分高齢化しているというのがありますので、新しい価値観を入れないと世代交代も難しいという、そういう活動を続けるためにもアップデートしていかないといけないという視点は、やはり持つておく必要があるかなと思います。

【石田座長】 ありがとうございます。ほかにいかがですかね。川上委員、お願いいたします。

【川上委員】 先ほどKPIについてのお話をさせていただきました。日本風景街道でルート数を増やしていくのがいいのかどうなのかという、全体に関わるようなお話がありましたので、それに絡めながら発言させてください。

ここはポイントだなと思いながら、今日私が参加させていただいた中での今の考えですが、ここから10年、数よりも質が重要ではないかと思っております。繋がるというコンセプトをもとに、しっかり事例を作っていくことがすごく大事なのだろうなど。日本風景街道に取り組んだことで、これぐらいにぎわいが生まれたとか、このぐらい地域が変わったとか、あとはやはり持続可能性の観点で、お金の流れっていうのも非常に重要だと思うので、どのぐらいの経済効果が生まれて、この活動を持続的に続けられるようになったということを事例として、全国から1つ、2つ、3つしっかり作っていくということが重要ではないか。それが達成できれば、じゃあうちでも日本風景街道に取り組んでみようかなっていう地域が現れだして、結果的に数も増えていくって理想的なサイクルになるのかなと思いますので、すごく理想論を語っている自覚はありますが、そこに向けて進んでいけると良いのではないかと考えます。

【石田座長】 ありがとうございます。

【原委員】 先ほどのKPIの数という問題になるのですが、この資料の6ページを見ていただくと分かると思うのですが、数もありますがカバーエリアというのもあって、例えば北海道だと、もう空いているところが2か所ぐらいしかないんです。それで、なおかつその2か所も、もうすでに候補ルートでいうことで、指定に向けて頑張っている団体があるような状況で、もしもこの2つが登録されると、ほぼ北海道全体が風景街道になるような状況だと思います。九州もかなりありますが、地域によって、四国はかわいい小さいのがたくさんあるとか、地域特性が結構いろいろあるので、そういうことも含めて、考えていかなければならないということが一点あります。

あともう一つ、先ほど石田先生が言っておられたビューポイントパーキングなどでの、インフォメーションとかインタープリテーションのボードみたいなものの作り方というのは、確かコロラド州を調べてみたら、アメリカの公園管理局が出しているガイドラインの作成規則がベースになっているようです。山や自然の解説の仕方、解説看板について、日本の場合はいろいろ見てみますと、案内看板が多いのです。そういった意味で風景街道らしい解説看板の、あんまりきちきちと決めてしまうと地域の方で作るのが大変になると思いますので、風景街道として、これは風景街道の方々が関わっているんだというのが分かることと、風景街道らしい解説看板の作り方を示したガイドラインのようなものがあると、少し緩くても良いですので、全体としての我々としての統一感というものが図られるのではないかというようなことを感じています。

【石田座長】 ありがとうございます。

【羽鳥委員】 先ほど水野課長から発言がありましたが、改めて確かにこの推移を見ていると、10年間でそんなに増えていない、数ではないと言いながらも増えていないということは、やはり風景街道の価値が十分浸透してないという面があるのではないかと思います。

ただ、北海道のシーニックバイウェイなどを拝見していると、やはりこの活動があったから地域づくりに関わった人というケースが少数ながら確実にある、その価値はものすごく重いなと感じていますし、そこはきちんと伝えていきたいし、ただ一方で今後の10年間見た時には、その価値の表現の仕方とか価値付けというのは少し変わってくるのかなと思ったので、是非風景街道がある時、無い時で何が違うのか、風景街道が無いとどのような時に困るのか、について整理するのは良いと思いますし、今ある149ルートも結構厳しい、苦しんでいるところもあるというところで、その149ルートもポジティブになれるような価値の提言ができると良いと思っています。

【石田座長】 そろそろ約束の時間になりました。今日は本当にどうもありがとうございました。最後にこれも昔話になってしまいますが、10年目の提言に向けて有識者懇談会とか年表がありました。有識者懇談会にも参加させていただいた時に風景街道は当時140ぐらいありましたが、3割強がほぼ実質的活動が無かったという調査結果もございまして、なかなか難しい状況にあるということも事実だと思います。

でも逆に言うと、先ほど申し上げましたように、ほとんど何の物質的支援もない中で、伴走支援はあったんですけど、増え続けているということは非常に重要なことだと思いますし、それをさらに増やしていく、原さんではありませんけど、全国が塗りつぶされるころまで頑張っていきましょうという、それを目標にかけてはどうかという提案だと思います。そこを目指す限り、何をどうすべきか、今日、私の発言は反省しているのですが、どちらかというと、抽象的な理論的な議論ばかりでしたけど、どう皆さんに楽しんで、ワクワクしながら参加していただけるか、そのためのツールをきちんと議論するということが大事ではないかという気がします。

そこに向けて、川上委員から、やはりその他の委員からもご指摘がありましたが、活動資金とかビジネス化っていうことも、これまで風景街道の中で少し弱かったという部分もありますので、その辺も目配りしながら考えているのかなと思いました。

まとめにならないまとめでございましたが、今日いただいた貴重な意見を多数いただきましたので、次回に向けて整理をしていただいて、また次回良い議論をしていただければと思います。

ということで、私の司会は、ここまでにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【道路環境調整官】 本日の会議資料につきましては、ホームページで公開をさせていただきたいと思います。また、議事概要につきましても、作成後、委員の皆様方も確認をとらせていただいた後に、ホームページで公開させていただきたいと思います。また、第2回の会議につきましては、地方開催を予定しておりまして、日程調整等については改めてご連絡させていただきますので、どうぞ協力をお願いいたします。それでは以上をもちまして、本日の日本風景街道未来ビジョン共創会議を閉会いたします。皆様ありがとうございました。

— 了 —